

# ノビネチドリ

*Gymnadenia camtschatica*

ラン科

## 名前の由来

ノビネチドリは、テガタチドリ属の間では例外的に根が細い円柱形状であるため「延根」とつけられた。「千鳥」は、この仲間の花の形をチドリが翼を広げて飛ぶ姿に見立てたため。  
漢字名：延根千鳥



ノビネチドリの花。淡紅色が多いが白いものもある

## 形態的特徴

高さ30～60cm。茎は太く、稜がある。葉は楕円形でふちは波打ち、茎上に互い違いにつく。花は小さく淡紅色で、茎の上部(苞葉の腋)に多数、穂状につく。5枚の花びら(花弁)と、先が2回ほど切れ込む唇弁という下方にのびる1枚の花びら(花弁)を持ち、後方に長細く湾曲する距(きょ)

がある。花が白色になる個体もある。

類似種と見分け方：テガタチドリ、ハクサンチドリ。

よく似た淡紅色の花を持つが、ノビネチドリの様に葉が波打つことはない。

## 生育環境・分布

低地～山地のやや湿った林内や林縁などに生育する。

帯広周辺では札内川沿いの河畔林内で見られる。

分布：国外分布は、樺太、カムチャツカ、朝鮮。

国内分布は、北海道、本州中北部、四国、九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、低地～山地のやや湿った林内で見られる。

## 生活史

開花時期：6月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■ノビネチドリの種子は非常に小さく、人工的に増やすことは困難であるが、一方で石礫の多いところやマツ造成地、林道法面など人工的に作られた環境でもたくさんの個体が見られる。

■ラン科には和名に「チドリ」のついた植物は26種類もある。

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。



ノビネチドリ。花の色は違っても、同じように葉の縁が波打つ

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

## 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙謙 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「ラン科ハクサンチドリ 週間朝日百科 植物の世界104」井上健 朝日新聞社 1996

「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ